1 van ke acrome



### 来歴

- 1989 年 千葉県に生まれる
- 2012年 武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科 インテリア専攻卒業
- 2016年 東京芸術大学大学院 美術研究科 デザイン専攻卒業
- 2016年~東京藝術大学 デザイン科 教育研究助手として勤務

#### 展示歴

- 2016年8月 グループ展「夏の芸術祭| 日本橋三越 出展
- 2018年2月 グループ展「GEIDAI meets SEIBU/SHIBUYA Arts Affair of GEIDAI 展」西武渋谷 出展
- 2018 年 4 月 個展「息を建てる | DiEGO 表参道 東京
- 2018年8月 グループ展「「夏の芸術祭」 日本橋三越 出展
- 2018 年 9 月 個展「息の触り心地について」 Gallery O2 金沢
- 2018 年 10 月 個展「息の触り心地について/東京」 アッシュカフェ 東京

### 受賞歴

- 2018 年 「Midtown Award 2018」 アート部門 グランプリ受賞
- 2018 年 「LEXUS DESIGN AWARD 2019」 ショートリスト選出

### メディア掲載

- 2018年「CORE interior」 4月号 掲載
- 2018年 「いけばな龍生」 5月号 掲載
- 2018年 「Design boom」 掲載
- 2018年 「Spoon & Tamago」 掲載
- 2018年 「三友新聞」 掲載

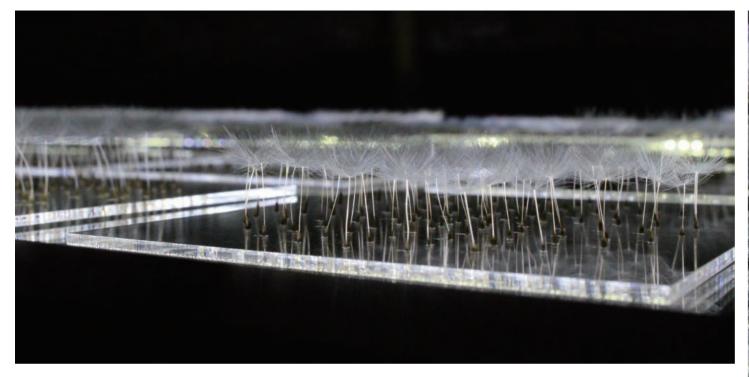


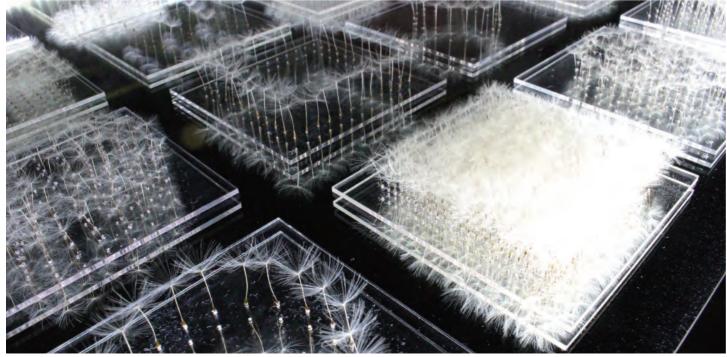
2017年12月~2018年4月	4-8
息を建てる	
2018 年 4 月	
息のそよぐ庭	10-14
2018年7月	
息を読む TBS ドラマ「この世界の片隅に」コラボレーション作品	16-20
2018 年 10 月	
都市を植える Midtown Award 2018 アート部門 グランプリ受賞作品	22-28

息を建てる 2017-2018

2018 年 グループ展「GEIDAI meets SEIBU/SHIBUYA Arts Affair of GEIDAI 展」西武渋谷 出展2018 年 グループ展「「夏の芸術祭」 日本橋三越 出展2018 年 個展「息の触り心地について」 Gallery O2 金沢2018 年 個展「息の触り心地について/東京」 アッシュカフェ 東京

息を建てる







## 息を建てる

私は蒲公英の種を使って、私たちの吐く息でささやかに 揺れる建築を 100 棟建てた。強いて言うならば蟻の雨除 けくらいにしかならないものだ。しかし、そこには息が 建っている。息の形としての建築、構造。吹き飛ばそう とする力、揺れる綿毛、耐える根。息という微細な力が、 この建築には大きく作用する。その双方にある関係性に よって、息を立体的に捉えること、建築物という(建って いる)存在を再定義することができるはずだ。

材料: アクリル板、ガラスミラー板、蒲公英 サイズ: 什器 1560mm×545mm×900mm 作品 100mm×100mm×2mm breath wind

Seed architecture.

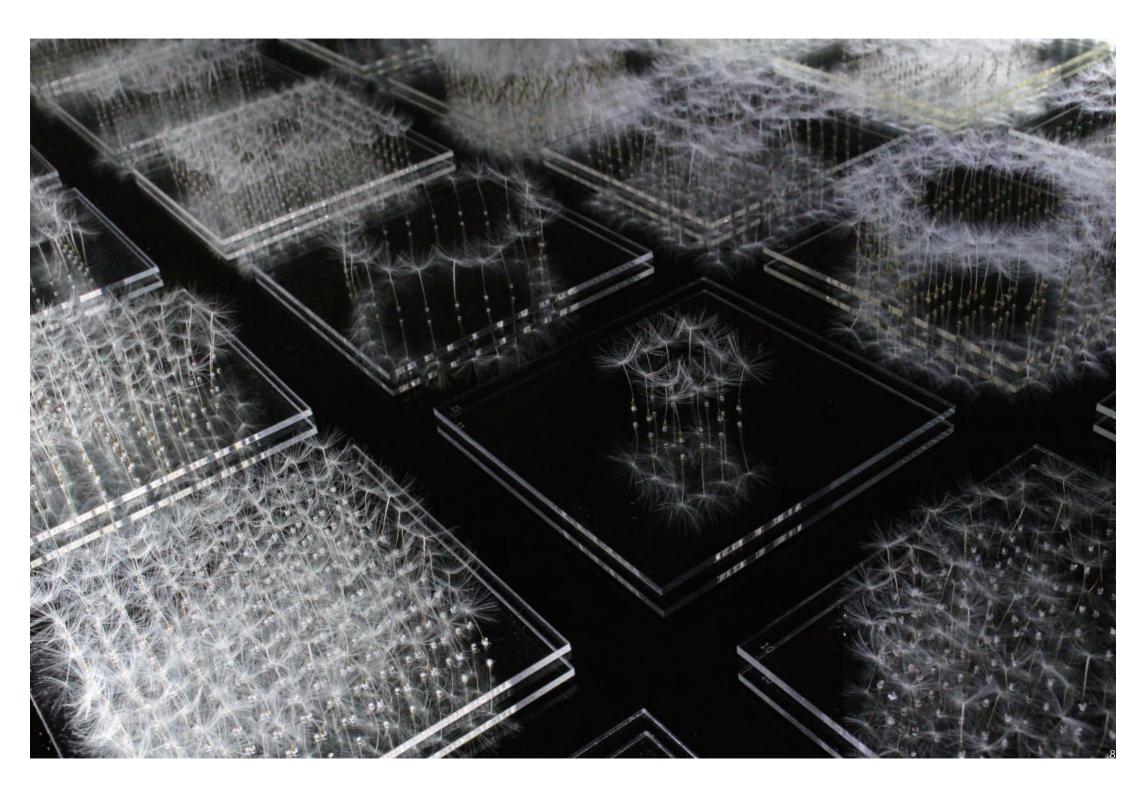
(O-ndelion)

Poorts
(Structure)

figa



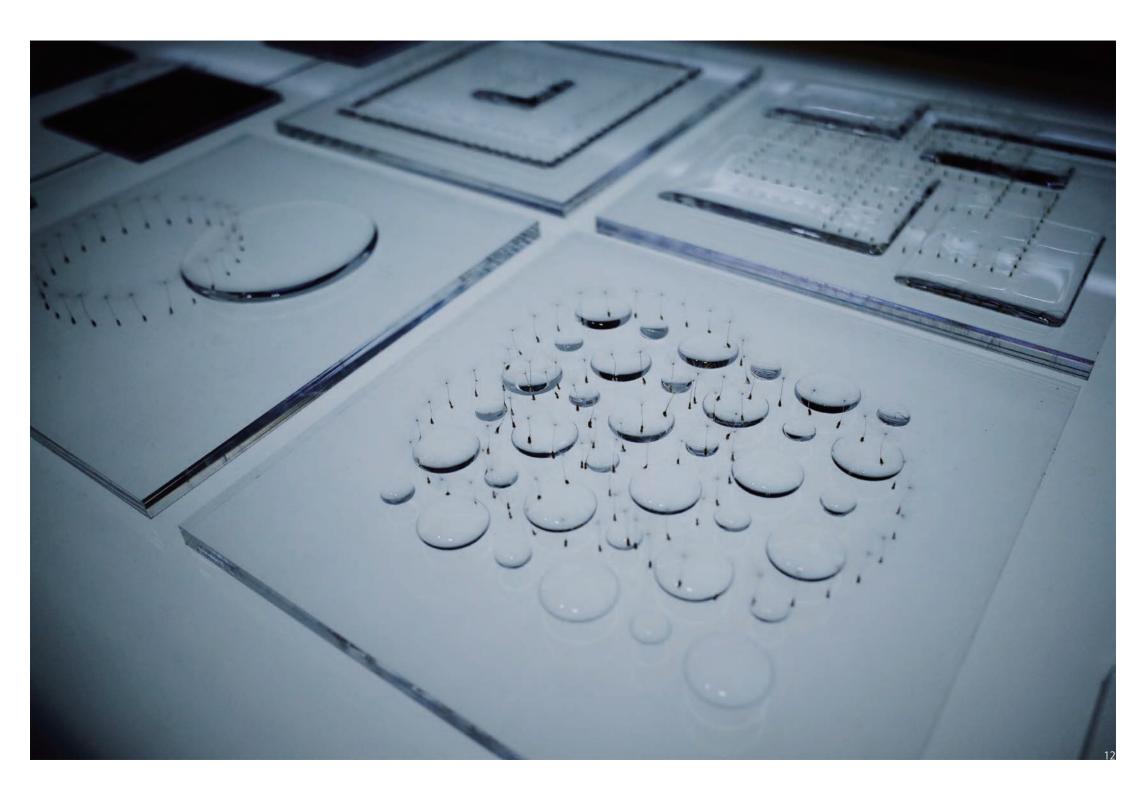
人は立ってはいるが、風が吹けば倒れてしまう。大きい揺れではしゃがみ込んでしまう。建物はそうではなく、どんな時にもそこに建ち続けている。それは私たちに無い、「基礎」とそこから伸びる構造をしっかりと持っているからであると言える。



息が戦ぐ庭 2018

> 2018 年 個展「息を建てる」 DiEGO 表参道 東京 2018 年 個展「息の触り心地について」 Gallery O2 金沢 2018 年 個展「息の触り心地について/東京」 アッシュカフェ 東京

息が戦ぐ庭



# 息が戦ぐ庭

「息を建てる」を発展させた作品として、庭としての表現を加えた、ランドスケープとしての作品。息を吹きかけると蒲公英はもちろんのこと、稲穂や草葉が風でそよぐ様に水面が揺れる。アクリルの盤面には、水のとどまる部分以外に撥水加工を施し、少し膨れた水たまりができる。撥水の力を使って、水の形も自由に操ることで庭と建築のリズムや疎密を表現している。

本作品においては4パターンの配列を設計した。

材料:アクリル板、蒲公英、撥水スプレー、水

サイズ: 200mm×200mm×10mm

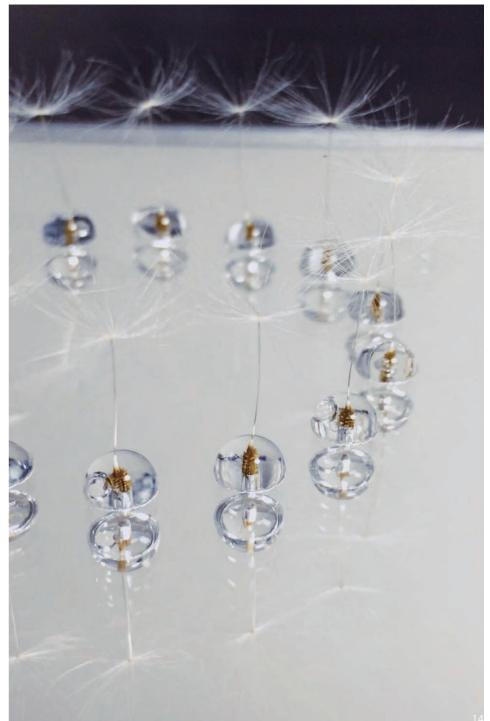


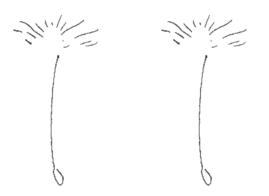












息 を 読 む 2018

> 2018 年 グループ展「「夏の芸術祭」 日本橋三越 出展 2018 年 個展「息の触り心地について」 Gallery O2 金沢 2018 年 個展「息の触り心地について/東京」 アッシュカフェ 東京





## 息を読む TBS ドラマ「この世界の片隅に」コラボレーション作品

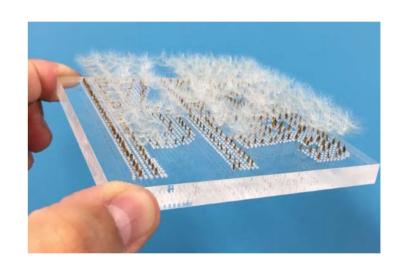
TBSドラマ「この世界の片隅に」とのタイアップで製作した作品。タイトルの文字を綿毛に置き換えることで、文字を読む際に起こる息を可視化する。

綿毛でも視認できる配列の設計で何度も実験を繰り返し ながら、言葉を視認できる姿に昇華した。

金沢での個展の際には、母音をテーマにした新作を発表している。

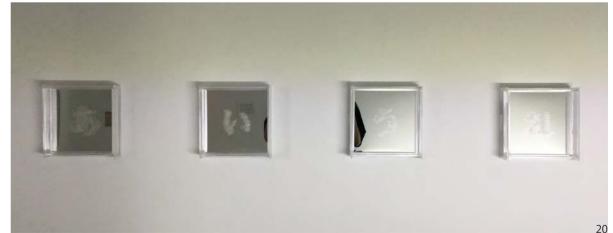
材料:アクリル板、アクリルミラー板、蒲公英

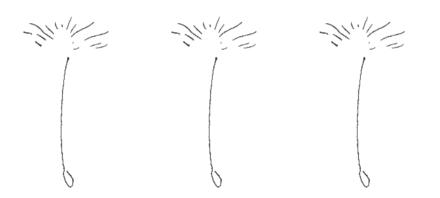
サイズ:720mm×430mm×50mm







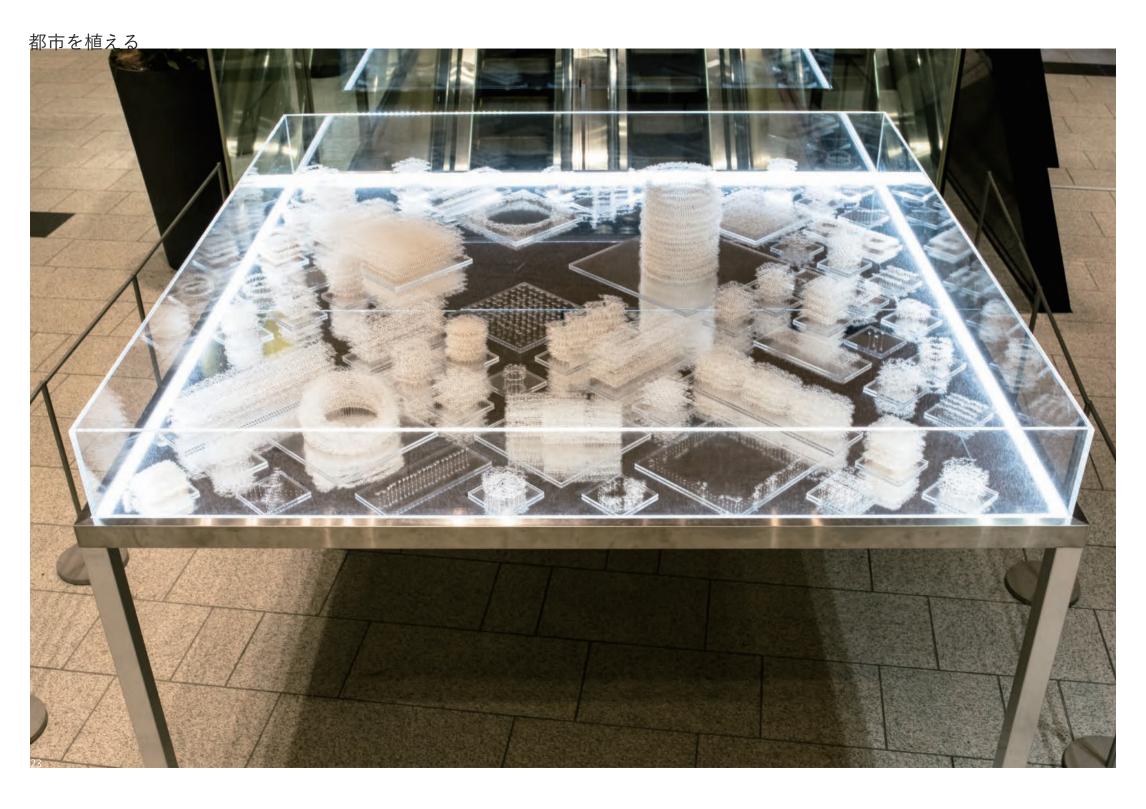




都市を植える 2018

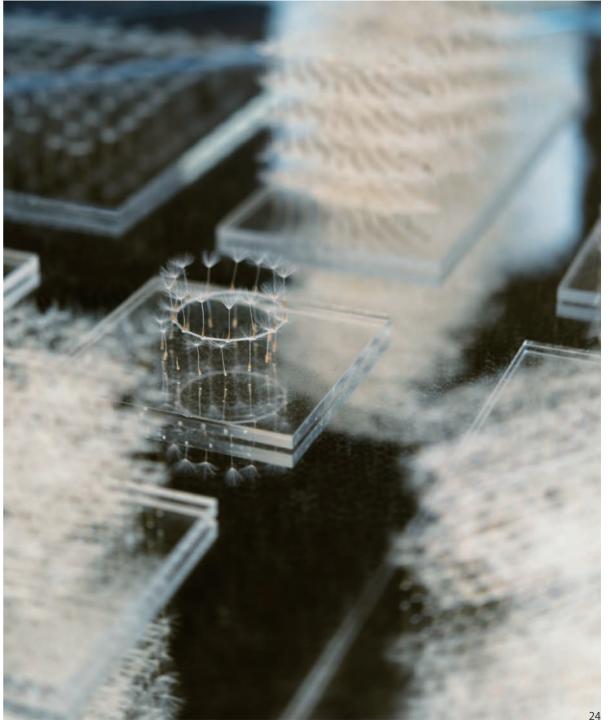
> 2018 年 グループ展「「夏の芸術祭」 日本橋三越 出展 2018 年 個展「息の触り心地について」 Gallery O2 金沢 2018 年 個展「息の触り心地について/東京」 アッシュカフェ 東京

2018 年 「Midtown Award 2018」 アート部門 グランプリ受賞作品

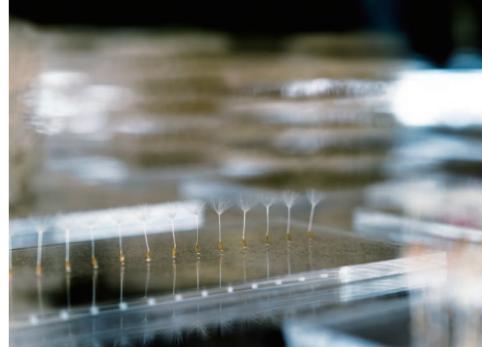


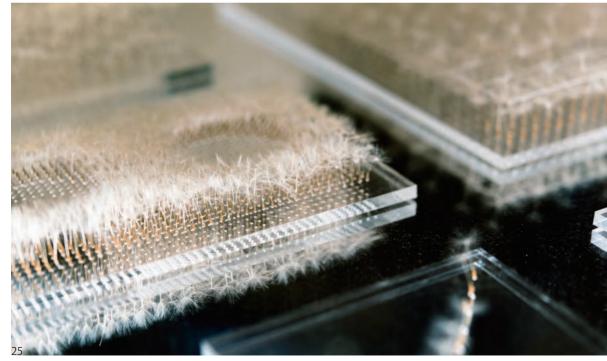
















### 都市を植える MidtownAward2018 アート部門 グランプリ受賞作品

### コンセプト

都市は新陳代謝をしている。時間とともに景観は変化し、 私たちの過ごす時間や場に変化を与えてきた。しかし、 最初から都市と位置付けられた土地はない。建築を建て、 壊しを繰り返しながら、膨張した結果である。私は蒲公 英の綿毛を植え、その新陳代謝を表現した。儚くも懸命 に建つ最小の建築たち。ひいては都市である。壊れても、 誰かが植えれば生まれ変わる。都市は誰のものでもなく、 時間とともに更新され続けていくものなのだ。

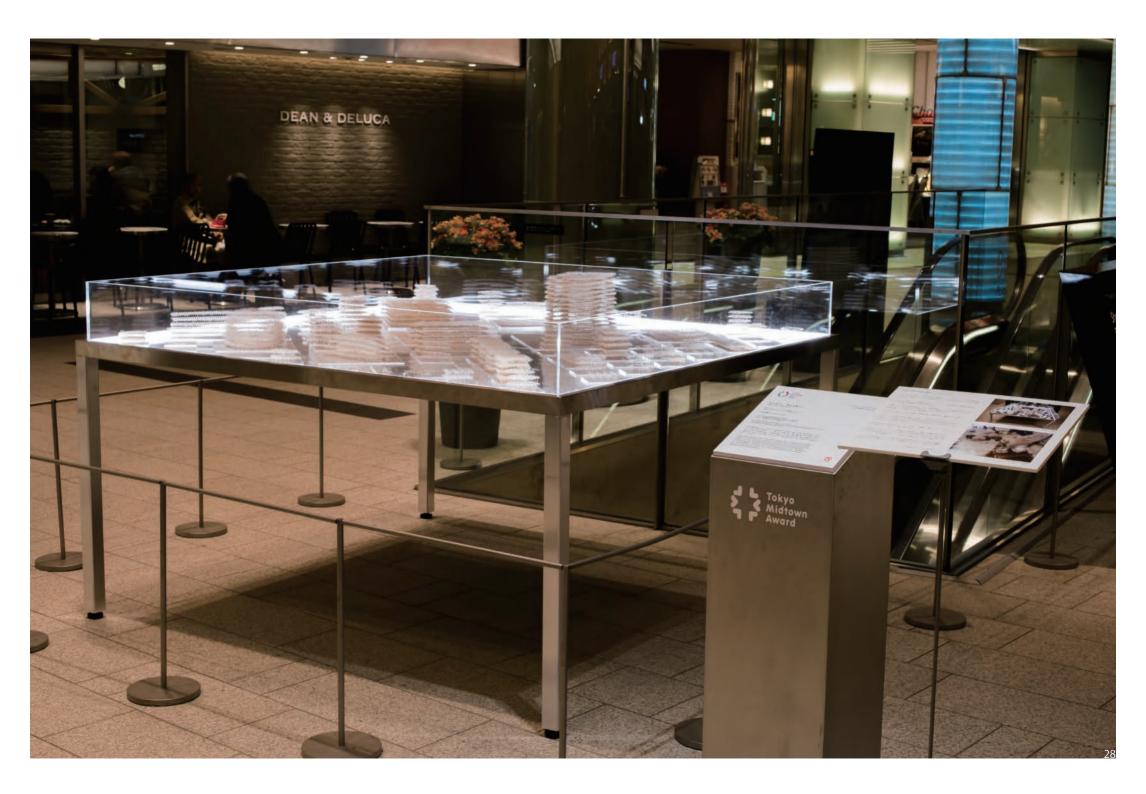
### 概要

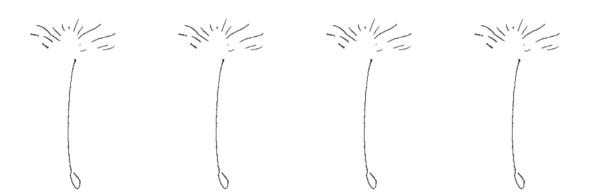
「息を建てる」を発展させ、綿毛そのものを構造として使用した1階~15階建ての建築群。それが立ち並ぶと都市の景観となる。朽ちて崩れ落ちる、建築物に対する時間も併せて表現している。10000本以上の綿毛を使って、今まで建築表現にとどまっていたものを都市として昇華させた。作品のコンセプトが、綿毛を構造体として建築を成り立たせたことでさらに強固なものとなった。

材料:アクリル板、蒲公英

サイズ: 什器 1900mm×1900mm×900mm

作品 サイズ可変





Jusuke acomme